

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N212	保健政策論 (Health Policy)	専門基礎科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	前	月・4	加隈哲也 内線：5033 E-mail：kakuma@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

公衆衛生看護を実践する上で必要不可欠な知識として、保健医療福祉行政の仕組み、制度の変遷と内容、そして保健医療福祉計画の策定から評価を学び、保健活動に応用できることを目的とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 保健医療福祉行政の仕組み、制度の変遷と内容について説明できる。	○			○			
2. 行政における保健師の役割と活動について説明できる。	○				○		
3. 保健医療福祉を変革・創出する方法と考え方について説明できる。	○		○	○	○	○	

【授業の内容】

1	イントロダクション、保健医療福祉行政の基本
2	公衆衛生の基盤形成
3	保健医療福祉行政の動向
4	保健医療福祉行政のしくみ
5	保健医療福祉行政の財政
6	保健医療福祉行政と保健師の活動
7	社会保障制度と政策(1)：理念としくみ
8	社会保障制度と政策(2)：医療制度と政策
9	社会保障制度と政策(3)：介護保険
10	社会保障制度と政策(4)：公的扶助
11	保健医療福祉の計画と評価(1)
12	保健医療福祉の計画と評価(2)
13	保健医療福祉の計画と評価(3)
14	保健師国家試験からみる保健政策論
15	講義全体のまとめ

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	講義内での穴埋め資料、小テスト	教科書を読み返して、どこに何が書かれているか理解することがまず大事。 テキストを上手に活用できれば十分である。 また国家試験で問われている内容を重視する。
B：意見の表現・交換	○	講義内での質疑応答	
C：応用志向	○	ケースメソッド	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回に講義する教科書のページを指定するので、その範囲の内容（欄外記載も）について予習する(22.5h)。
事後学修	配布資料や教科書を用いて、授業で学習した内容を復習する(22.5h)。

【教科書】 藤内修二(著)：「保健医療福祉行政論 第5版」、医学書院、2021

【参考書】 特に指定しない

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
穴埋め資料、随時小テスト	20%	○	○	○
期末試験	80%	○	○	○

【注意事項】

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の实務経験	医師（大学附属病院）	
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる 実務経験者		
実務経験をいかした 教育内容	医師としての実務経験、また産業医としての保健指導の経験を交えて、講義する。	
授業形態	対面授業	